

「それ何なん？」地方創生にまつわる言葉、ご説明します！

第4回：「地域おこし協力隊」ってなに？

高度成長の過程で急激に進んだ地方の過疎化に対して、国も昭和45年ごろから様々な対策を打ってきましたが、その流れを止めることはできませんでした。同時に高齢化も進んだことから、地方は「仕事や役目はあれど、担う若者が居ない」という状況に陥ったと言えます。そこで、地域外の若者に移住してもらい、地域活性に繋がる各種協力活動を担ってもらう制度が「地域おこし協力隊」です。

地域おこし協力隊は希望の地域に赴任し、3年を目安に地域活動に従事、給与や活動費は国費から自治体に対して予算手当がされます。

今や過疎対策の中心施策とも言えるこの制度、2015年には650を超える自治体で2600名超の隊員が活動しており、美波町でも現在3名が活動中。

美波の振興に汗を流してくれる地域おこし協力隊。けれども彼らは決して魔法使いではありません。この町を元気にする主人公は町民ひとりひとり。地域おこし協力隊の視点やアイデアを頂きながら、一緒にあってこの町を盛り上げていきたいものです。

地方創生トピックス

ようこそ美波町へ！

「まめぼんcafe」1周年！

地域おこし協力隊で美波町に赴任した園木裕介さんと奥様の美保さんが「美波町小規模事業起業支援制度」を活用してまめぼんcafeをオープンしてはや1年。今や薬王寺門前町の顔のひとつになったお店に、4月14日たくさんのファンが集まり1周年記念パーティが開催されました。

園木さんは、「お客様とスタッフに恵まれたおかげで、2年目を迎えることができました。」「飲食店も増えてきましたが、お互い協力しながら、良い競争関係で、町を盛り上げていきたいと思えます。」とのこと。

最後は、「美波町の一員であり、美波町のみなさんのおかげで成り立っている私たちのお店。これからも愛してもらえるお店であるよう努力して参ります。」と、力強いコメントをいただきました。



お知らせ

美波町の地方創生に関する新聞記事や雑誌が以下の場所でご覧いただけます！

日和佐地区：日和佐図書・資料館1階

由岐地区：由岐ふれあいホール(ぽっぽマリリン2階)

リレーコラム5 ふるさとへの思い

美波町ゆるキャラかめたらう

徳 永 聖 二

美波町といえばアカウミガメ。このように、すぐ頭に思い浮かぶのも先人の皆さまの努力があったからです。子どもたちのウミガメを愛する心から生まれた小さな活動。その活動は、やがては町全体の、ウミガメ保護へと広がっていきます。この事実は、全国でも自慢できることの一つです。ところで、私自身、若い頃、都会にあげられ旅立ちましたが、わずか一年あまりで、挫折して帰ってきたという苦い思い出があります。けれども、そのような失意の中でも、ふるさととは、わたしをやさしく迎えてくれました。わたしは、今も「かめたらう」というキャラクターで生きる事ができるのも周りの皆さまから、数えきれないくらいの愛情をいただいているからです。

「大好きな美波町！」

わたしは、これからも訪れる人たちが、美波町のファンになっていただけるよう、精一杯、PRに努めさせていただきます。と思っています。

次回は、地域おこし協力隊として本町へ移住して1年目の「美波町観光協会の平林千鶴さん」にリレーコラムをお願いしたいと思います。

制作：美波ふるさと創造広報チーム

